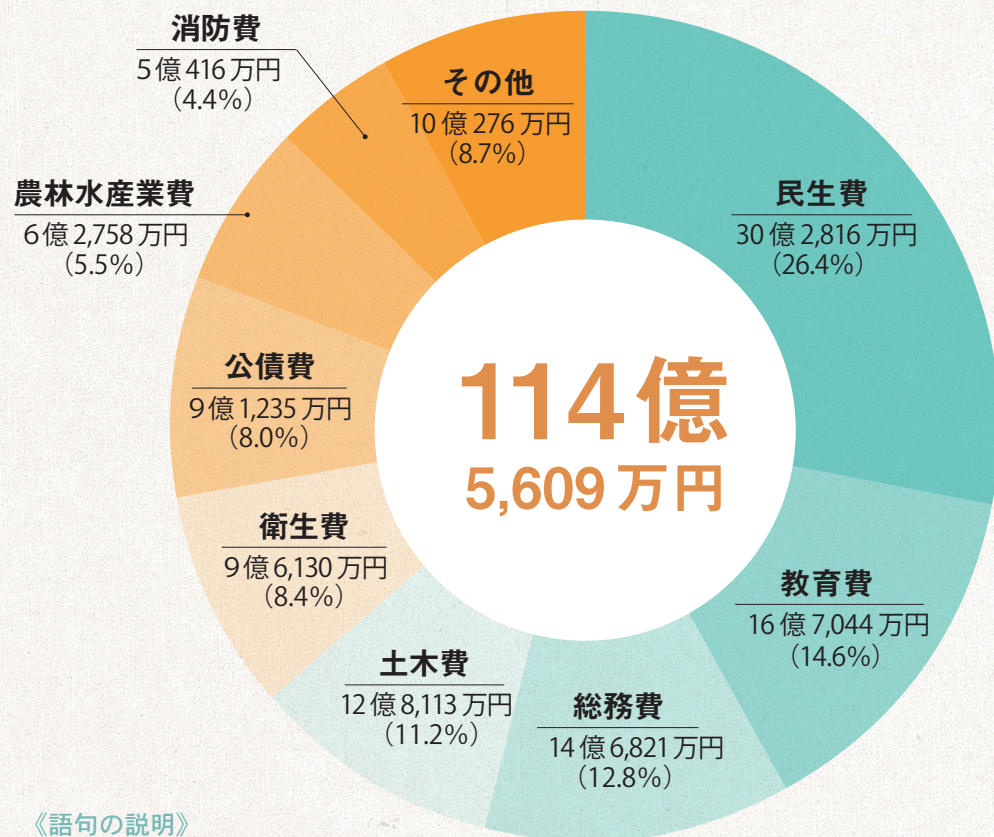


決・算・報・告

令和6年度決算が9月議会定例会で承認されました。6年度で第2期内子町総合計画が終了し、今後は第3期内子町総合計画に基づいて財政を運営します。町政は町民の皆さんや企業から納められた税金や、国からの地方交付税などをもとに運営しています。どれくらいの収入があり、どのような目的で使ったのか、決算の概要と財政状況をお知らせします。

- 《主な事業》
6年度に実施した主要な事業を紹介します。（事業名／事業費）
- **教育費**
▽学校施設トイレ改修工事／1億3,960万円
 - ▽大瀬自治センター解体工事／8,055万円
 - ▽内子座保存修理等工事／3,034万円
 - **総務費**
▽定額減税補足調整給付金／1億2,454万円
 - **土木費**
▽旧森家住宅第2期実施設計委託／1,458万円
 - **衛生費**
▽道の駅からり及び関連施設への再エネ導入業務委託／1,297万円
 - ▽带状疱疹任意予防接種補助／800万円
 - **農林水産業費**
▽農業機械施設整備事業補助／1,453万円
 - **商工費**
▽道の駅せせらぎ加工所等設計委託／4,29万円



《語句の説明》

- 民生費 ……高齢者や障がい者、児童の福祉サービスの提供などに使われた費用
 教育費 ……小中学校などの管理運営や施設整備、生涯学習の推進などに使われた費用
 総務費 ……総務管理、企画調整、地域振興、税務事務などに使われた費用
 土木費 ……道路橋梁や公共施設の整備、維持管理などに使われた費用
 衛生費 ……町民の健康増進や、ごみの処理などに使われた費用
 公債費 ……町の借入金の返済に使われた費用
 農林水産業費 ……農業、林業、畜産業の振興などに使われた費用
 消防費 ……地域の防災力の向上の他、広域消防の負担金や消防団の運営にかかる費用
 その他 ……ここでは議会費、商工費、災害復旧費、諸支出金を含めている

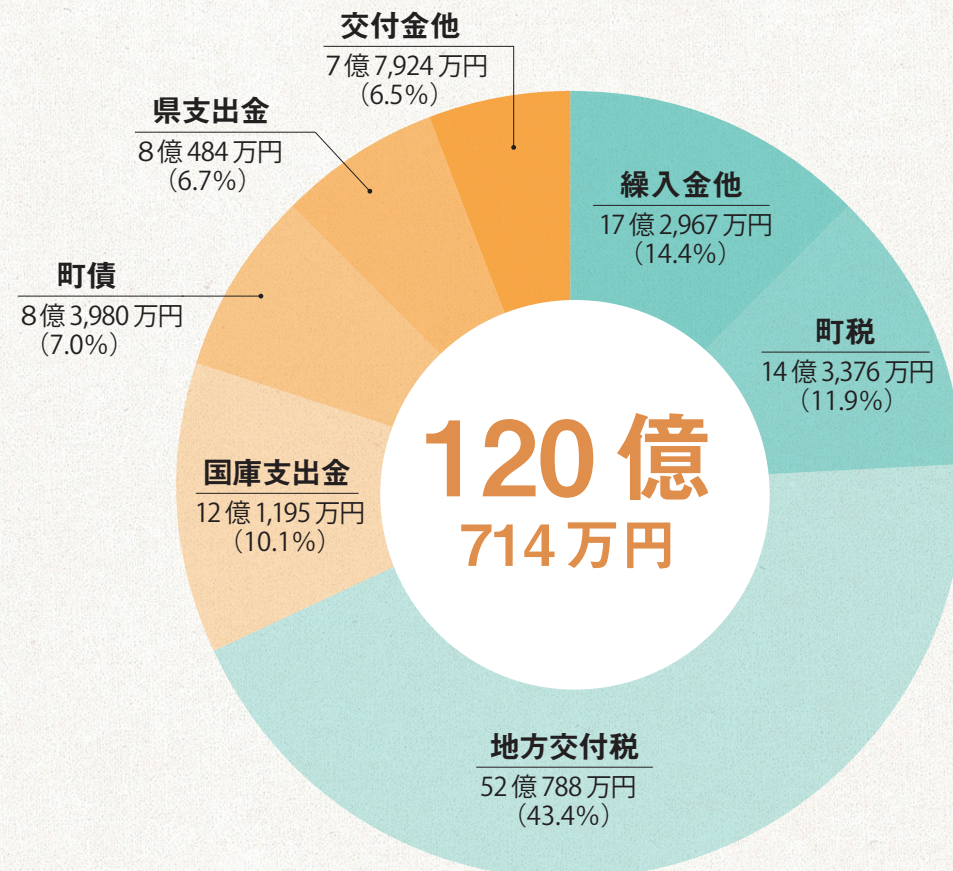
(単位：万円)

特別会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
小田分校寄宿舎	3,883	3,883	0
国民健康保険事業	16億9,649	16億8,092	1,557
後期高齢者医療保険事業	2億8,942	2億8,256	686
介護保険事業	28億9,670	27億7,453	1億2,217
介護保険サービス事業	1,327	1,327	0

2. 一般会計 歳出

扶助費・公債費は約3億円の減額
 新型コロナウイルスの感染対策や物価高騰に対する経済対策事業の縮小により、総務費および民生費に占める扶助費が、5年度より2億8,374万円減りました。公債費は関係である「財源確保の借入」と「元利償還」の計画的な財政運営により4,341万円減少しています。

1. 一般会計 歳入



《語句の説明》

- ※依存財源 ……円グラフ中の「町税」「繰入金他」以外が依存財源
 繰入金他 ……ここでは繰入金の他、繰越金、分担金及び負担金、手数料、寄附金などを含めている
 町税 ……町民の皆さんが町に納める税金。町民税、固定資産税、軽自動車税などがある
 地方交付税 ……どの市町村でも一定の行政サービスを行えるように、国から交付されるお金
 国庫支出金 ……町が行う事業に対し、必要性に応じて国から交付されるお金（県支出金は県が交付）
 町債 ……財政負担の平準化や世代間の負担の公平性などを図るため、国などから借りたお金
 交付金他 ……地方消費税交付金やゴルフ場利用税交付金など、町の規模などに応じて交付されるお金。ここでは地方譲与税も含めている

6年度の 主な事業(抜粋)



立石自治会館新築工事
 ▶事業費：1億33万円



デジタルサイネージ導入業務委託
 ▶事業費：1,757万円



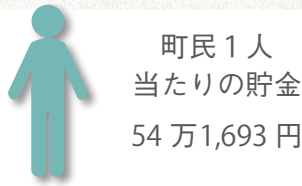
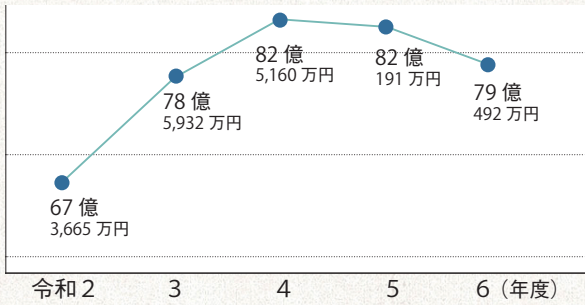
漫画『高畑誠物語』制作業務委託
 ▶事業費：294万円

6. 基金 ―町の貯金―

町の貯金残高は79億492万円
中長期的な財源を見通した財政運営

基金は歳入から歳出を引いて残っている金額があった場合に積み立てし、臨時の出費や財源不足が見込まれる場合に取り崩して事業費に充てます。6年度は「森林環境譲与税基金」から森林整備事業などに6,596万円、「公共施設整備基金」から大瀬自治センター解体工事などに3億3,730万円など、合計8億4,047万円の支出。一方で、内子町地域振興基金などに合計5億4,348万円を積み立てました。

●基金残高の推移



7. 健全化判断比率・資金不足比率

6年度の実質的な赤字や将来負担などに係る指標「健全化判断比率」と、公営企業ごとの資金不足がどの程度あるかを示す「資金不足比率」をお知らせします。内子町はどの指標も基準を下回り、良好な状態にあります。

健全化判断比率 ※1

内子町の財政状況は「健全段階」

一般会計などを対象とした実質収支は黒字です。全会計で資金不足はなく、安心できる状況です。「実質公債費比率」「将来負担比率」も国が定める早期健全化基準以下で、健全性を保っています。

健全化判断比率		基準		
6年度		早期健全化	財政再生	
実質赤字比率	※2	—	14.12%	20.00%
連結実質赤字比率	※3	—	19.12%	30.00%
実質公債費比率	※4	2.8%	25.0%	35.0%
将来負担比率	※5	—	350.0%	

資金不足比率

すべての公営企業で資金不足はなく「安心」

公営企業ごとの資金の不足額が、事業規模に対して、どの程度あるかを示します。内子町は全ての公営企業で資金不足はなく、財政の健全性を保っています。

企業会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20%
下水道事業会計	—	

●用語の解説

※1健全化判断比率：財政の健全度を表すもの。財政状況に応じて「健全段階」「第1段階」「第2段階」に区分される。

※2実質赤字比率：一般会計などの、標準財政規模に対する歳入総額から歳出総額を差し引いた額の割合。標準財政規模とは、普通交付税など、標準的に収入している経常一般財源の大きさをいう。

※3連結実質赤字比率：全会計の赤字額から黒字額を引いた額を、標準財政規模で割った比率

※4実質公債費比率：全会計と町が加入する他団体の会計で、標準的に収入しうる税金や地方交付税などのうち、借金の返済に使われている割合。（3カ年平均で表す）

※5将来負担比率：内子町が背負っているすべての借金の大きさを示す割合。

4. 公営企業会計

五十崎平岡地区の配水管を耐震化
下水道事業は使用料を増額改定

《水道事業会計》大瀬中央鶴川地区で水道未普及地域解消工事を、五十崎・平岡地区で配水管耐震化工事を、小田地域で旧簡易水道施設統合工事を実施しました。安全な水を提供するため、計画的に整備を進めます。

《下水道事業会計》使用料を約20%増額改定しました。浄化センターの耐震・改築更新に係る業務委託等を実施。今後も計画的に下水道施設を更新し、効率的に管理します。

●収益的収支

…水道水の供給、汚水の適切な処理に必要な財源と経費（単位：万円）

会計名	収入	支出	差引利益
水道会計	4億3,577	3億7,382	6,195
下水道会計	2億7,724	2億7,703	21

●資本的収支

…水道・下水道施設を建設・改良するために必要な財源と経費（単位：万円）

会計名	収入	支出	差引利益
水道会計	9億2,103	9億5,363	△3,260
下水道会計	9,106	1億3,369	△4,263

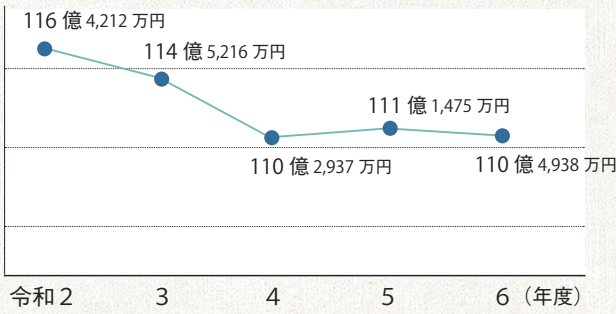
※水道会計・下水道会計の不足額は、これまで蓄えてきた内部留保資金などで補填しました。

5. 町債 ―町の借金―

町の借金残高は110億4,938万円
便益を受ける後世代の住民と現世代の住民との間で負担を分かち機能

町債は大きな事業をするために借り入れるお金です。小中学校トイレ整備事業に6,520万円、立石自治会館新築整備事業に1億200万円、内子座保存改修事業に1,750万円の他、施設や道路の整備、災害復旧などに合計11億659万円を借り入れました。一方で、11億7,195万円の元金償還を行いました

●町債残高の推移



決算審査意見

赤穂英一 代表監査委員
久保美博 監査委員

6年度の一般会計、特別会計および公営企業会計の決算審査は、地方自治法第23条、地方公営企業法第30条および内子町監査基準に基づき、決算資料などを中心に、関係書類の審査、関係職員からの聴取、財務監査や前年度決算審査における指導事項などへの対応状況の確認も含めて実施した。加えて、抽出した工事については、書面監査と現地監査を実施した。

その結果、各会計の決算書および関係調書などは、予算ならびに関係法令に準拠して作成されており、誤りのないものと認めた。工事も適正に施行されていた。内子町は健全財政であるが、今後も厳しい地域の現状は続くと思われ、従来通りの予算規模の確保は年々難しくなってきた。引き続き、補助金制度の積極的な活用や、基金の適正な積立と利用、必要不可欠な事業の選択、適時適切な予算配分と実施に努められたい。